

「虚偽の告訴に関する住民からの意見」(全掲)

1. FJ ネクストの係長さんは、受診の際、健康保険を使ったのでしょうか？業務中であれば健康保険は使えず、労災の手続き(第三者行為災害届・念書(兼同意書))が必要です。虚偽の保険適用はできません。その点を帯同した弁護士先生はご承知なのか疑ってしまいます。健康保険を利用したとなると、これも虚偽の申立てを立証することになりますね。そして、犯罪です。
2. 9/19 に同行した住民達は、FJ ネクストの係長さんが痛がる声など一切聞いていませんし、怪我を負ったのであれば、警察を呼んだその時に何故その話をしなかったのか疑問です。診断書を出して、住民代表を訴えることまでするのかと、本当に呆れて言葉が出ない。そんなことまでさせられている係長さんもまた、住民と同様、FJ ネクストの上司から人間扱いされていないということに気付いていないのでしょうか？まるで使い捨ての道具としてしか扱われていない係長さんは、憐れとしか言いようがないです。
3. 虚偽の告訴の件を知り、その姑息で卑怯な手口に、はらわたが煮えくり返る思いです。リーダーの人柄を良く知っている私達からしたら有り得ない事柄で、今回の告訴は絶対に許せません。以前、担当係長が個別面談で我が家に訪問された際に、対応した主人は、「彼は、直ぐに辞めちゃうかもね。」と話していました。虚偽の告訴の件を主人に伝えた際には、「担当係長は人として魂まで売ったのだね。」、「残念だし、FJ ネクストは人を不幸にする恐ろしい会社だね。」と感想を述べました。嘘は必ず暴かれます。直ぐに虚偽の告訴は取り下げて、私達のリーダーに謝罪をすることが企業の未来のためと考えます。
4. FJ ネクストは、警察や裁判所のシステムを悪用して住民側のリーダー潰しをしていると思った。FJ ネクスト担当者に帯同した弁護士は、虚偽の告訴をした共犯にあたるのでは？
5. 約束を守らず手段を選ばないFJ ネクストに対して、ずっと真剣に対峙してきた市民がここまで傷つけられ、それでもこれまでの経緯を全て知っている横浜市建築局が市民からの要請を見殺しにするとしたら、それは決して許されないことだ。市民からの信頼を回復するためにも、今後、横浜市建築局には、これまでのような生半可な対応を徹底的に改めて欲しい。

6. 外傷を伴わない捻挫等は、自訴のみで診断書が簡単に発行される。診断書があっても、それは傷害罪の裏付証拠には決してならないと思う。
7. 虚偽の告訴を行ったことに対する虚偽告訴罪は、実刑のみの重罪(人を貶めた行為、及び虚偽の申立てにより捜査機関を振り回した行為は悪質)である。これを知っている筈の弁護士が就いていて、なんて馬鹿げた事件を作り上げたのかと哑然とする。
8. 70歳にもなる住民代表が、30代前半のがっしりした体型の担当係長の手首を掴んで怪我をさせる等、常識的・物理的に、どう考えてもあり得ない。
9. 土壌汚染調査の未実施個所を見つけられてしまったことへの腹いせだと思った。調査が計画書通りにきちんと行われていれば起こり得なかった事柄なのに、自分達の不正を棚に上げて住民への八つ当たり走り、嫌がらせのためにリーダーに対し虚偽の告訴をするなんて、人として企業として信じられない。それに協力する弁護士もおかしいと思う。
10. このような姑息かつ、卑劣な対応をするFJ ネクストには、一層協力する気になれなくなった。警戒心 MAX！正直、事業撤退して貰うのが公共のためだと思う。
11. ゼネコンが決まったようだが、今度こそFJ ネクストが損ないまくって地に落ちた信頼回復のため、真摯な対応をして欲しい。FJ ネクストが丸投げした約束をゼネコンは必ず守って欲しい。
12. 今からでも遅くないので、即刻、告訴を取り下げて住民代表に謝罪すべきだ。
13. 説明会を行うことを近隣住民全家庭と約束しておきながら、それを破った張本人が、今度は事件をでっち上げて善良な市民を陥れている。これはFJ ネクストの企業体質そのものを現わしていると思う。とてもまともとは思えない。
14. 被害届にある接触位置が、事実と異なることが非常に不自然。担当係長は、土壌汚染の調査が行われていないことが暴露されて気が動転し、その前後の記憶を無くしているのだろう。接触位置の相違自体が、本件が本来事件として成立しないケースであることを示している。それでも告訴してきたのは、担当係長が記憶を無くしていることを利用した弁護士が、ありもしないストーリーを作り上げたからと考えるのが自然だ。担当係長も弁護士も話にならない。

15. 担当係長は、ただ会社に利用されただけだと思いたいです。人として行ってはならない虚偽の訴えは、担当係長にとって一生の心の傷になるでしょう。
16. FJ の担当係長には、正直、この計画の担当から外れて欲しい。町内会館での説明会開催の約束を破り、不完全な土壌汚染調査に対する虚偽報告も見て見ぬ振り、その上、それを暴いたリーダーを陥れたことは、断じて許すことができない。今後、洋光台を歩くなと言いたい。
17. 我々のホームページに掲載された「写真付きの調査未実施報告書」を見れば、トーエイ環境が提出してきた土壌汚染調査の報告書は虚偽であったことが一目瞭然だ。その事実をもってしても、事業者の開発許可申請に対して、何もできない・しないとする横浜市に対して失望している。横浜市職員行動基準の1には「私たちは、市民・社会の要請を実現するため行動します。」とあり、(1)には、「前例に頼らず、根拠となる法令やルールをよく確認して仕事をします」、(2)には、「法令やルールを守るだけではなく、市民・社会の求めるものに応えるため、法令やルールの点検・見直し・制定に取り組みます。」、(3)には、「よりよい行政サービスを提供するため、知識・技術の習得や能力の向上に努めます。」とあるが、取り組む姿勢すら全くみられない。市民の安全のために、横浜市職員行動基準に則った仕事をするのは、当然のことではないのか！？
18. 開発許可の手続きを有利に進めるために、弁護士も間に入り虚偽の傷害罪の告訴状を出すなど、決して許されることではない。犯罪であり、心から軽蔑する。
19. その発端は、工場跡地と知りながら計画地を購入した、FJ ネクスト責任者(部長代理と名乗る者)が原因。虚偽に虚偽を重ねて、住民、市の職員、横浜市会、警察署、土壌汚染調査会社、ゼネコンを巻き込んで数え切れない迷惑をかけ、遂には我々のリーダーと自分自身の部下を傷つけるにまで至った。当初から FJ の信用を失墜させるような言動を繰り返し、FJ に実質的な損失を与え続けている張本人(部長代理と名乗る者)が何の責任も取らず、のうのうと未だに FJ に在籍している時点で、もう何もかもがおかしい。自分さえ良ければ誰でも犠牲にして構わないのか？この FJ 責任者(部長代理と名乗る者)と肥田社長からの謝罪を要求する。

20. リーダーを陥れてまで隠したかった土壤汚染調査の結果なのだから、トーエイ環境作成の報告書には、まだ住民に隠している虚偽がたくさん潜んでいるのでしょね。潔白だと言うのなら、報告書を捏造したトーエイ環境に退いて貰って、土壤汚染調査をもう1度最初からやり直せば良いだけでしょう？このままでは、近隣住民や工事作業員の健康を脅かすだけでなく、マンション購入者まで騙すことになってきますね。それに加えて、ようやく施工者（ゼネコン）が決まったこのタイミングでの住民代表への虚偽の告訴は、住民側との軋轢を修復不可能にし、施工者（ゼネコン）をいきなり窮地に陥れることになる筈です。自分達の尻ぬぐいを丸ごと引き受けてくれた施工者（ゼネコン）に対する配慮の欠片もない。FJ ネクストは、関わった者を誰彼かまわず全て敵に回す、身勝手に薄情な企業だと世間に思われたくて仕方がないのでしょうか？意味が分かりません。
21. 事業体に対し、住民が不信感しか持たないのはこれまでの事業体の行為から当然のことだと思います。また、この状況を住民が説明・相談しても、計画を審査し、許可を出す立場であるにもかかわらず、適切な指導・審査を行おうとしない横浜市の対応に、愕然としています。市民に寄り添った真剣な対応を、速やかに行うことを強く要請します。
22. 横浜市は住民に寄り添った対応をせず、FJ ネクストの肩を持つのは何か理由があるのかなと疑いたくなります。住民を守る職務を放棄せず、住民に寄り添った対応をして頂きたいです。
23. こんなことになったのは、横浜市の職員が毅然たる態度で FJ ネクストを指導しなかった結果だと思う！どう責任を取るのか？
24. 完全に堪忍袋の緒が切れた。FJ ネクストには事業撤退がふさわしい。

以上